

企画名： 「学生会議！脱原発は可能か？」
実施日時： 2012年14日（土） 19:00~20:30
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 2F 211+212
登壇者： 横浜市立大学公認サークルRASK
ファシリテーター：白井一步（代表）、佐々木絢未
テーマ1：足立瞳（副代表）、佐瀬あゆみ
テーマ2：中野秀美、廣瀬航平
参加人数： 約40名
文責： 白井一步（横浜市立大学公認サークルRASK）

私たちの企画には、学生を中心に約40名の方々が参加して下さいました。知名度の無い団体でかつ開始時間が遅かったのも、こんなに参加者が増えたこと、参加者の皆さんの意識の高さにびっくりしました。私たちの企画では、テーマを2つに分けてディスカッションを行いました。テーマ1では「脱原発依存社会」について、テーマ2では「自然エネルギーの普及について」が主なテーマでした。ディスカッション自体は、思った以上に参加者の方々が意見を飛び交わせてくれたおかげで、内容の濃いものになったと思っています。今回は現実的な視点から、地域社会とのかかわりの中で見えてくる問題点をテーマとしてあげ、話し合ってもらったのですが、やはり皆さんの根本には、福島で放射能に苦しむ人々、帰りたくても帰れない人々の姿があって、そういう部分を忘れずに持っていることの大切さを改めて感じました。企画をした目的は、会議に参加して下さいっている方々に、新たな視点を見つける機会を作ろうというものだったのですが、参加して下さいった方の中に、「今まで目をつけていなかった問題を知れてよかった」と言っていたいたので、達成されたのかなと感じております。

しかし何と言っても今回の企画で得た最大の収穫は、「学生同士の繋がり」だと思います。なかなか学生の関心を集める事が出来ず苦労しているのはどの大学も同じのようでした。やはりまずは関心のある学生同士で団結する事が必要なように感じます。そういう意味で、今回の企画は大成功だと団体としては思っています。企画の最後にも話させていただいたのですが、市民社会の代表は私たち学生だと思います。学生が中心になって、今回の会議で終わりではなく、まだまだ“脱原発ムーブメント”を盛り上げていきたいと思いました。

